

I . 浜松地区感染対策サーベイランス報告
-抗菌薬-
2025.2.28

浜松医科大学医学部附属病院
感染制御センター/薬剤部
望月 啓志

抗菌薬サーベイランス参加施設一覧(24施設)

加算1施設

- ・遠州病院
- ・聖隷浜松病院
- ・聖隷三方原病院
- ・天竜病院
- ・浜松医科大学医学部附属病院
- ・浜松医療センター
- ・浜松赤十字病院
- ・浜松ろうさい病院

加算2施設

- ・市立湖西病院

その他の施設

- ・佐久間病院
- ・天竜厚生会診療所

加算3施設

- ・十全記念病院
- ・神経科浜松病院^a
- ・すずかけセントラル病院
- ・天竜すずかけ病院
- ・浜松北病院
- ・浜松市リハビリテーション病院
- ・浜松とよおか病院
- ・浜松南病院
- ・浜名病院
- ・北斗わかば病院
- ・松田病院
- ・丸山病院
- ・三方原病院

a) 使用なしのためグラフには表示されておられません。

データ集計の方法

- DOTs/100 patients-daysを指標とした比較を行う

DOTs(Days Of Therapies)

用法用量に関わらず、患者に投与された日数

$$\text{DOTs/100 patients-days} = \frac{\text{抗菌薬使用日数の総計(days)}}{\text{在院患者延べ数(bed-days)}} \times 100$$

DOTs/100 patients-days

…入院患者100人・日あたりの抗菌薬使用日数

データ集計の方法

- 加算1,2施設と加算3施設でグループ分け
 - 加算1,2施設グループ(9施設)
広域スペクトル抗菌薬
抗MRSA薬
 - 加算3施設グループ(14施設)
ペニシリン系抗菌薬
セフェム系抗菌薬
- 各グループ内で上記対象薬剤の使用量推移と使用量の内訳を比較

加算1,2施設 広域スペクトラム抗菌薬のDOT推移比較 (2024年1月-2024年12月)

抗菌薬使用状況の推移(折れ線)

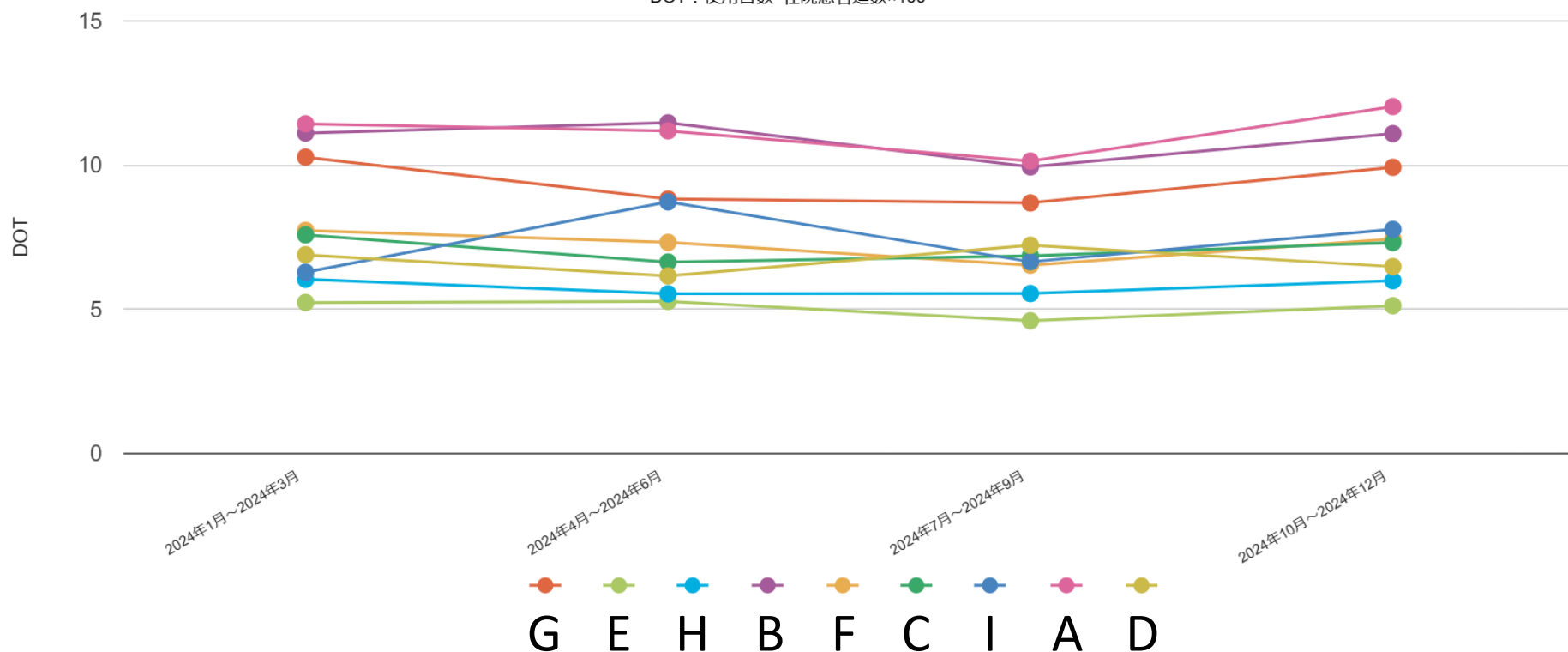
【期間：2024年01月～2024年12月

表示対象：浜松地区 感染症サーベイランス 比較対象：無し

表示単位：DOT 病棟区分：全て

薬剤種別：注射 薬剤グループ：抗緑膿菌薬・薬剤系統／抗菌薬(28)】

DOT：使用日数+在院患者延数×100



各施設で若干の差はあるが使用量は概ね横ばいで推移

加算1,2施設 広域スペクトラム抗菌薬のDOT比較内訳 (2024年1月-2024年12月)

抗菌薬使用状況の施設間比較 (棒グラフ)

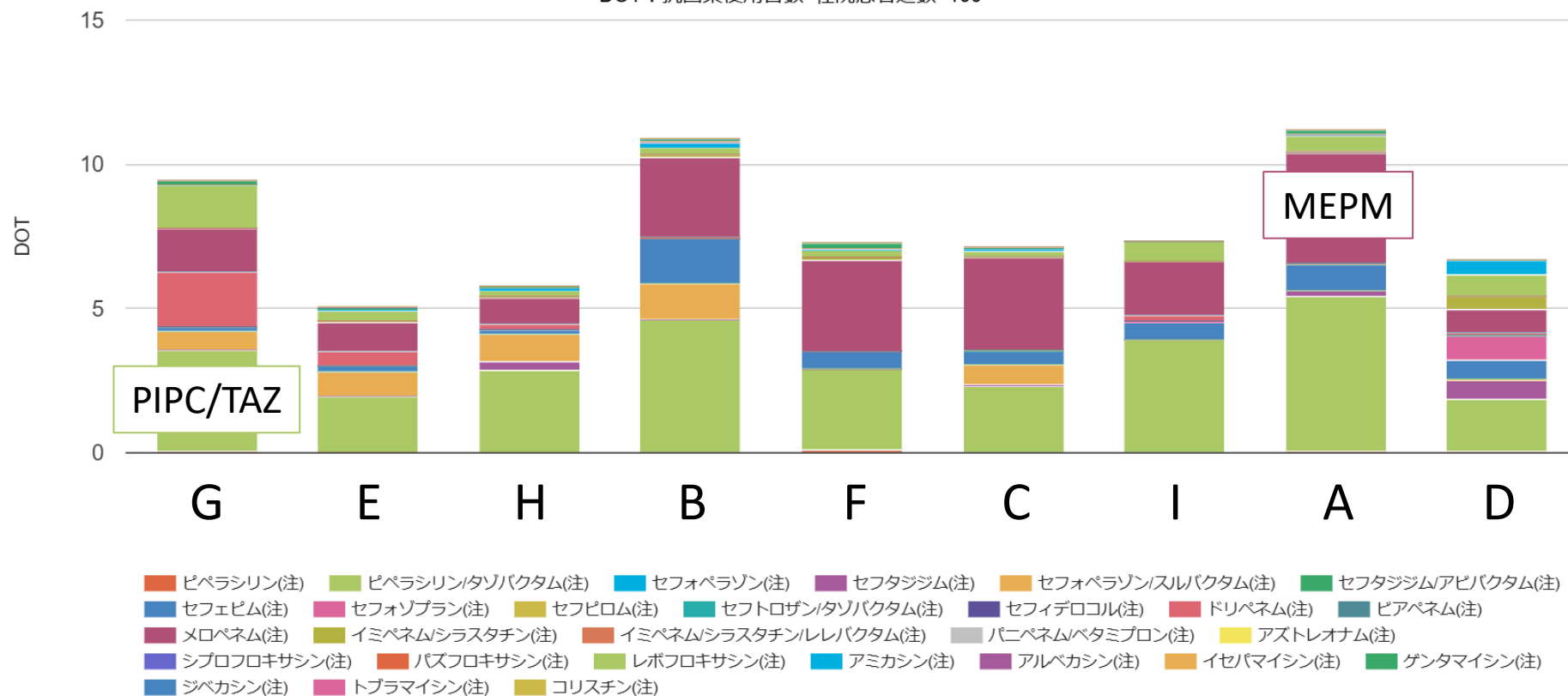
【期間：2024年01月～2024年12月】

表示対象：浜松地区 感染症サーベイランス 比較対象：無し

表示単位：DOT 病棟区分：全て

薬剤種別：注射 薬剤グループ：抗緑膿菌薬・薬剤系統／抗菌薬 (28)】

DOT：抗菌薬使用日数÷在院患者延数×100



PIPC/TAZ、MEPMの使用割合は施設間で差を認める

加算1,2施設 抗MRSA抗菌薬のDOT推移比較 (2024年1月-2024年12月)

抗菌薬使用状況の推移（折れ線）

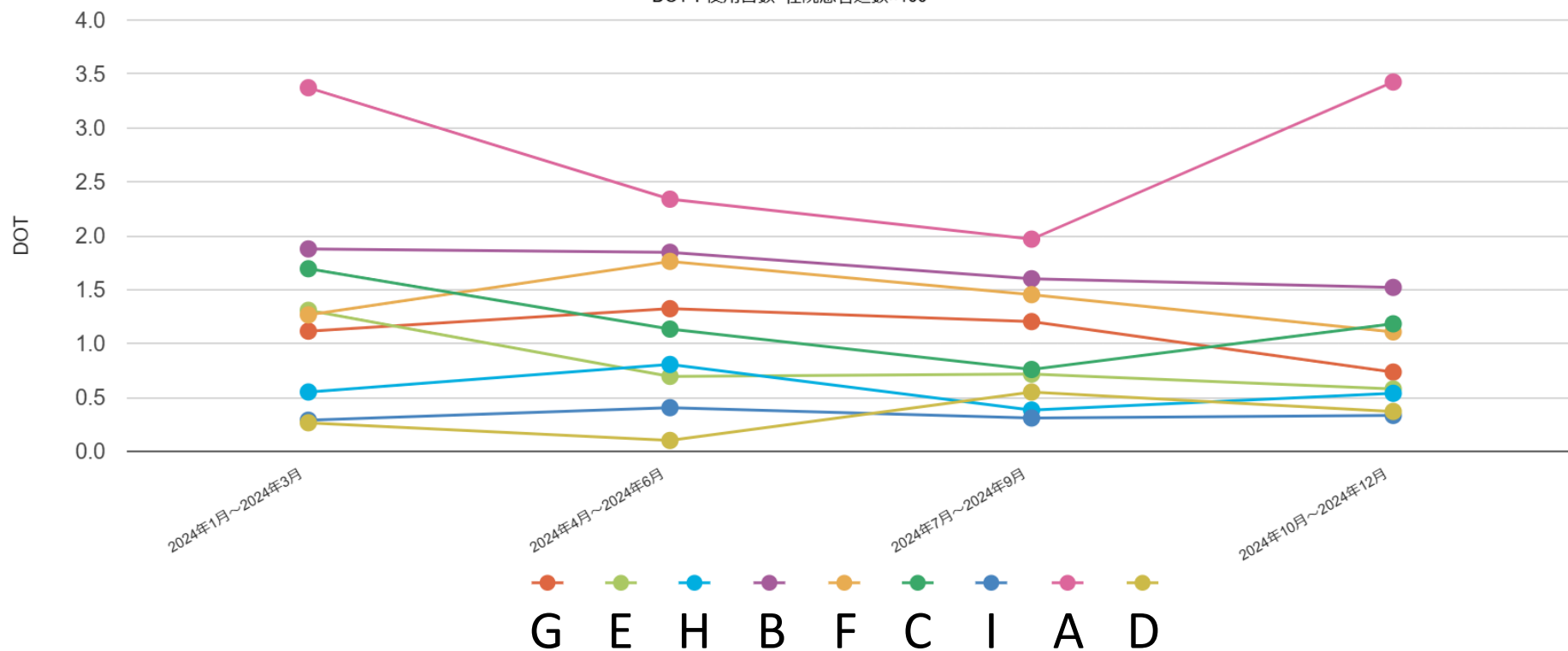
【期間：2024年01月～2024年12月

表示対象：浜松地区 感染症サーベイランス 比較対象：無し

表示単位：DOT 病棟区分：全て

薬剤種別：注射 薬剤グループ：抗MRSA薬・薬剤系統／抗菌薬（6）】

DOT：使用日数+在院患者延数×100



一部の施設で使用量の変動を認める

加算1,2施設 抗MRSA抗菌薬のDOT比較内訳 (2024年1月-2024年12月)

抗菌薬使用状況の施設間比較 (棒グラフ)

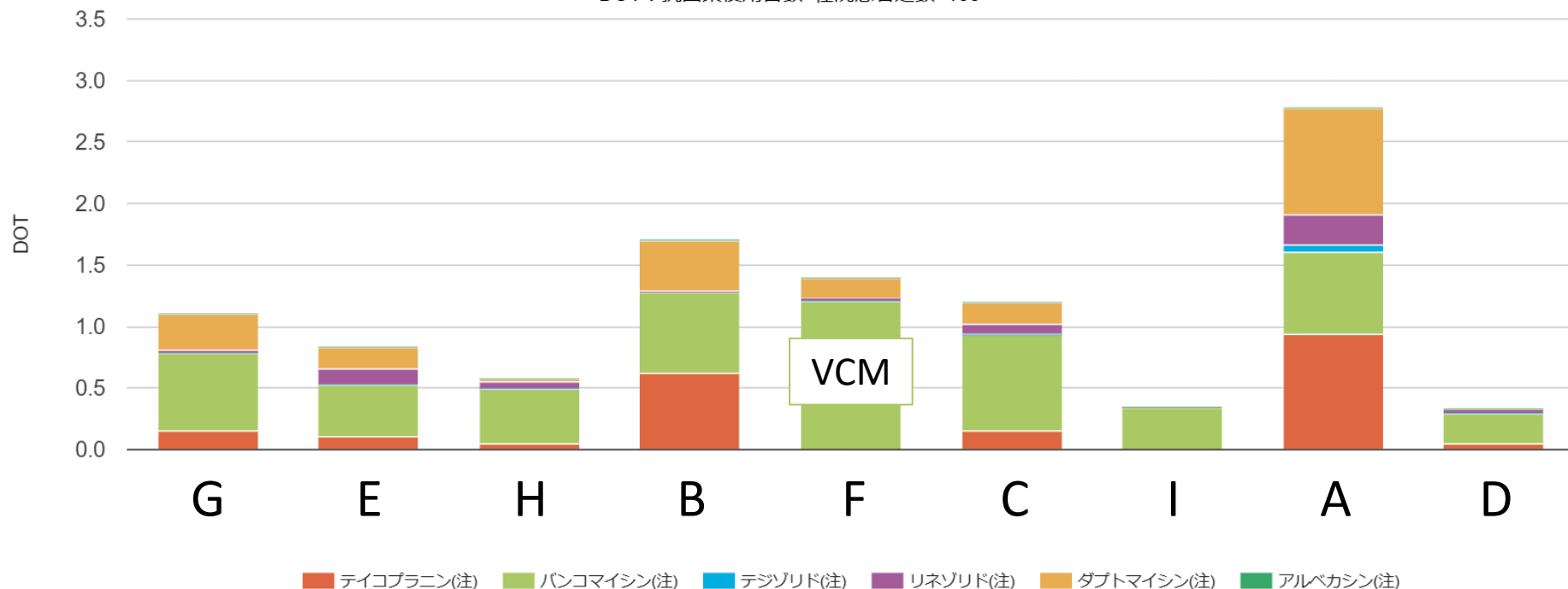
【期間：2024年01月～2024年12月

表示対象：浜松地区 感染症サーベイランス 比較対象：無し

表示単位：DOT 病棟区分：全て

薬剤種別：注射 薬剤グループ：抗MRSA薬・薬剤系統／抗菌薬 (6)】

DOT：抗菌薬使用日数÷在院患者延数×100



VCMが主に使われているが、使用割合は施設間で異なる

加算3施設 ペニシリン系抗菌薬のDOT推移比較 (2024年1月-2024年12月)

抗菌薬使用状況の推移（折れ線）

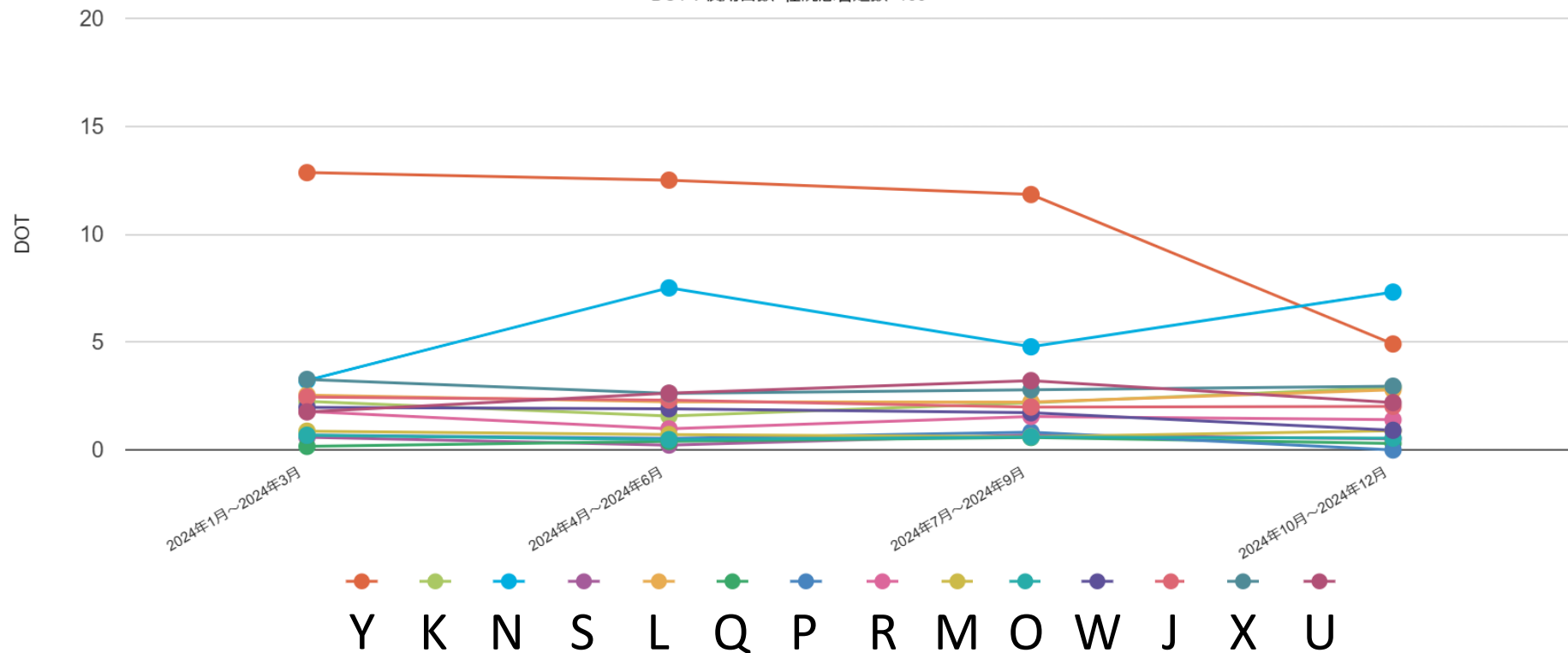
【期間：2024年01月～2024年12月

表示対象：浜松地区 感染症サーベイランス 比較対象：無し

表示単位：DOT 病棟区分：全て

薬剤種別：注射 薬剤グループ：ペニシリン系・薬剤系統／抗菌薬（8）】

DOT：使用日数÷在院患者延数×100



施設間で使用量の差が大きい

加算3施設 ペニシリン系抗菌薬のDOT比較内訳 (2024年1月-2024年12月)

抗菌薬使用状況の施設間比較 (棒グラフ)

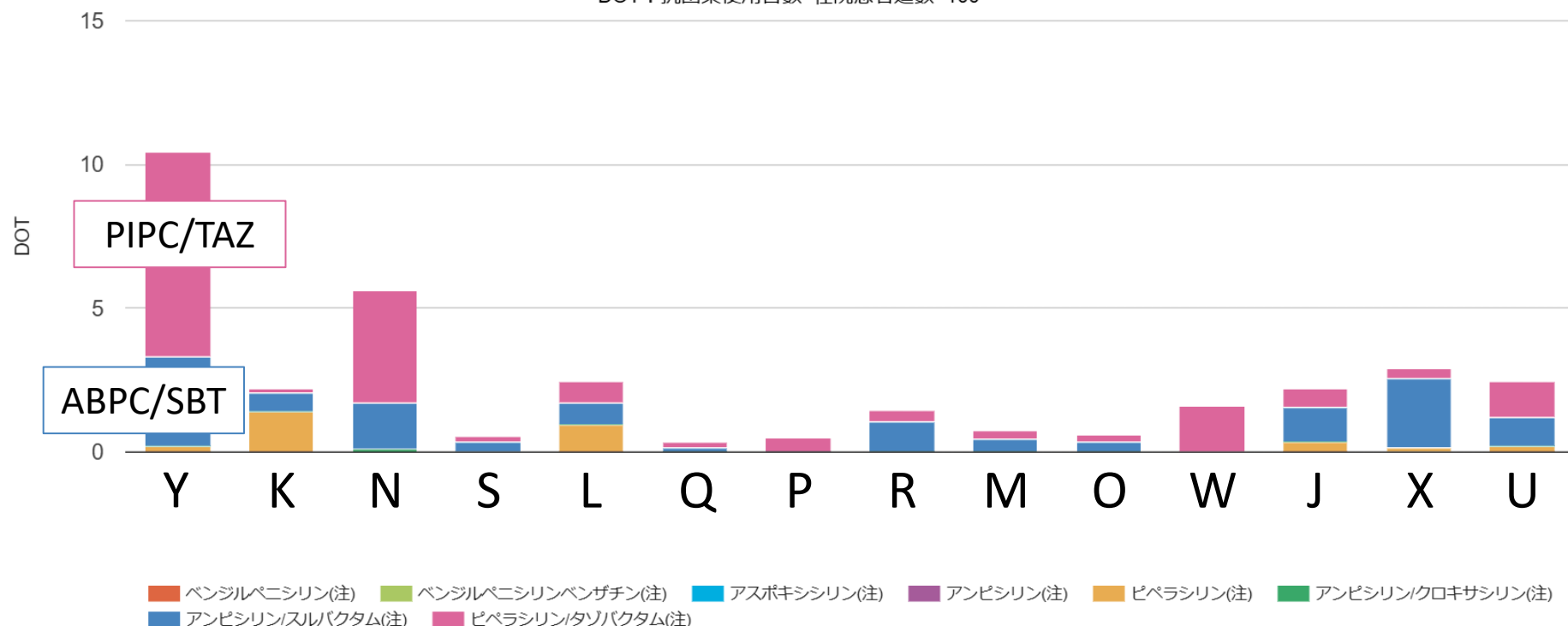
【期間：2024年01月～2024年12月】

表示対象：浜松地区 感染症サーベイランス 比較対象：無し

表示単位：DOT 病棟区分：全て

薬剤種別：注射 薬剤グループ：ペニシリン系・薬剤系統／抗菌薬（8）】

DOT：抗菌薬使用日数÷在院患者延数×100



ABPC/ST、PIP/TAZが主に使われているが
使用割合は施設間で異なる

加算3施設 セフェム系抗菌薬のDOT推移比較 (2024年1月-2024年12月)

抗菌薬使用状況の推移（折れ線）

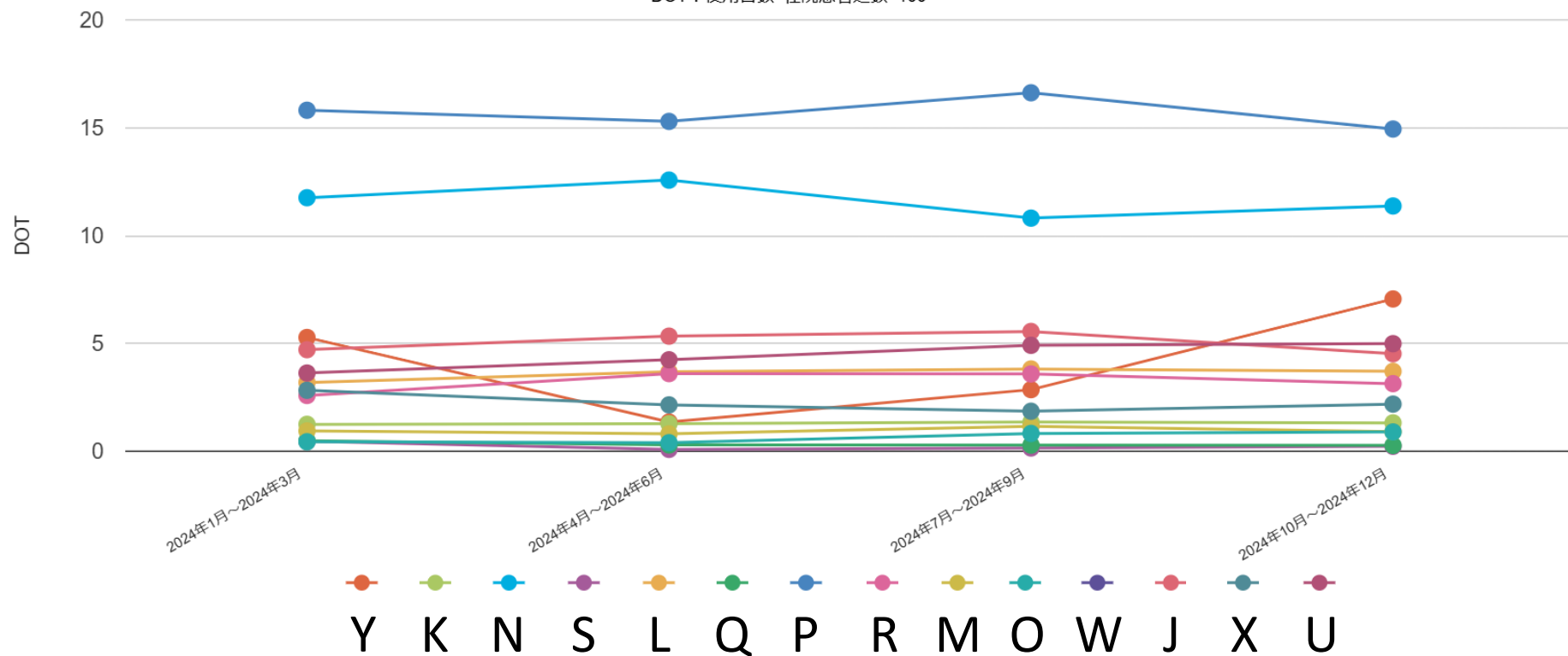
【期間：2024年01月～2024年12月

表示対象：浜松地区 感染症サーベイランス 比較対象：無し

表示単位：DOT 病棟区分：全て

薬剤種別：注射 薬剤グループ：全系統・薬剤系統／抗菌薬（5）】

DOT：使用日数÷在院患者延数×100



各施設内で使用量の変化はほとんどない

加算3施設 セフェム系抗菌薬のDOT比較内訳 (2024年1月-2024年12月)

抗菌薬使用状況の施設間比較 (棒グラフ)

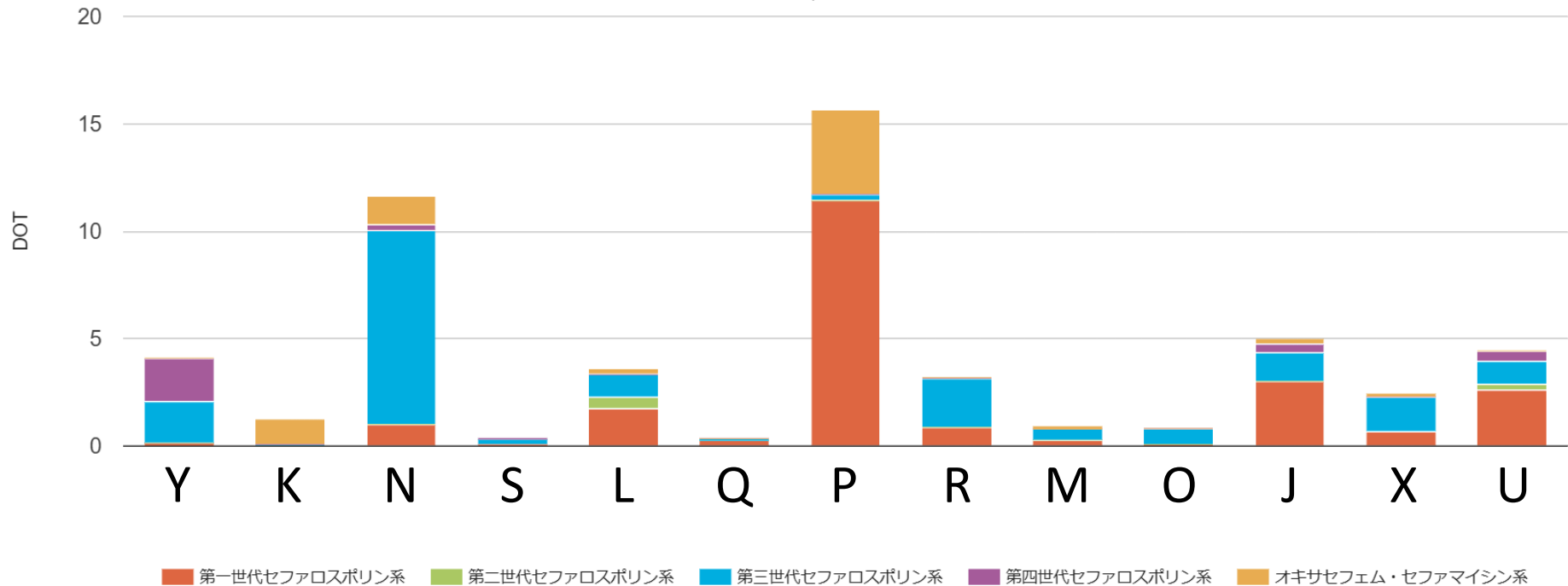
【期間：2024年01月～2024年12月】

表示対象：浜松地区 感染症サーベイランス 比較対象：無し

表示単位：DOT 病棟区分：全て

薬剤種別：注射 薬剤グループ：全系統・薬剤系統／抗菌薬 (5)】

DOT：抗菌薬使用日数÷在院患者延数×100



セフェム系抗菌薬の世代別の使用割合は施設間差が大きい

抗菌薬適正使用体制加算

【薬剤耐性菌対策アクションプラン(2023-2027)】

抗微生物剤の使用量			
	指標	2020年	2027年（目標値） （対2020年比）
ヒトに 関しては	人口千人当たりの一日抗菌薬使用量	10.4	15%減
	経口第3世代セファロスポリン系薬の人口千人当たりの一日使用量	1.93	40%減
	経口フルオロキノロン系薬の人口千人当たりの一日使用量	1.76	30%減
	経口マクロライド系薬の人口千人当たりの一日使用量	3.30	25%減
	カルバペネム系の静注抗菌薬の人口千人当たりの一日使用量 新	0.058	20%減
動物に 関しては	畜産分野の動物用抗菌剤の全使用量 新	626.8t	15%減
	畜産分野の第二次選択薬（※）の全使用量 新	26.7t	27t以下に抑える
	※第3世代セファロスポリン、15員環マクロライド（ツラスロマイシン、ガミスロマイシン）、フルオロキノロン、コリスチン		

【算定内容】

下記の施設基準に適合している保険医療機関に入院している患者について、5点加算

【施設基準】

1. 抗菌薬の使用状況のモニタリングが可能なサーベイランスへの参加
2. 直近6カ月において入院中の患者以外の患者に使用する抗菌薬のうち、Access抗菌薬に分類されるものの使用比率が60%以上またはサーベイランスに参加する医療機関全体の上位30%以上であること

AWaRe分類

WHOが抗菌薬使用量から抗菌薬適正使用を判断するための新たな指標

系統	薬剤名
ペニシリン	アモキシシリン
	アモキシシリン/クラバン酸
	アンピシリン
	パカンピシリン
	アンピシリン/スルバクタム
	ベンジルペニシリン経口・静注
	ベンザチンベンジルペニシリン
アミノグリコシド	スルタミシリン
	アミカシン
	ゲンタマイシン
	スペクチノマイシン
セフェム	セファレキシン
	セフロキサジン
	セファロチン
	セファゾリン
テトラサイクリン	テトラサイクリン
	ドキシサイクリン
クロラムフェニコール	クロラムフェニコール
リンコマイシン	クリンダマイシン
イミダゾール	メトロニダゾール経口・静注
サルファ剤配合	ST合剤
抗原虫薬	チニダゾール

系統	薬剤名
ペニシリン	ピペラシリン
	ピペラシリン/タゾバクタム
アミノグリコシド	アミカシン、ゲンタマイシン以外
	マクロライド
セフェム	すべて
セフェム	第2～4世代(*)
テトラサイクリン	ミノサイクリン経口
リンコマイシン	リンコマイシン
リファンマイシン	リファブチン
	リファンピシン
	リファキシミン
ニューキノロン	すべて
ホスホマイシン	ホスホマイシン経口
カルバペネム	メロペネム他(*)
	テベピネムピボキシル
グリコペプチド	テイコブラニン
	バンコマイシン経口・静注

* Access, Reserveに含まれていない薬剤

系統	薬剤名
セフェム	セフディコロール
モノバクタム	アズトレオナム
ポリペプチド	コリスチン静注・経口
	ポリミキシンB静注・経口
リポペプチド	ダプトマイシン
ベネム	ファロベネム
カルバペネム	イミベネム/シラスタチン/レレバクタム
ホスホマイシン	ホスホマイシン静注
テトラサイクリン	ミノサイクリン静注
	チゲサイクリン
オキサゾリジノン	リネゾリド
	テジグリド

Access

一般的な感染症の第一/第二選択薬として用いられる耐性化の懸念の少ない抗菌薬

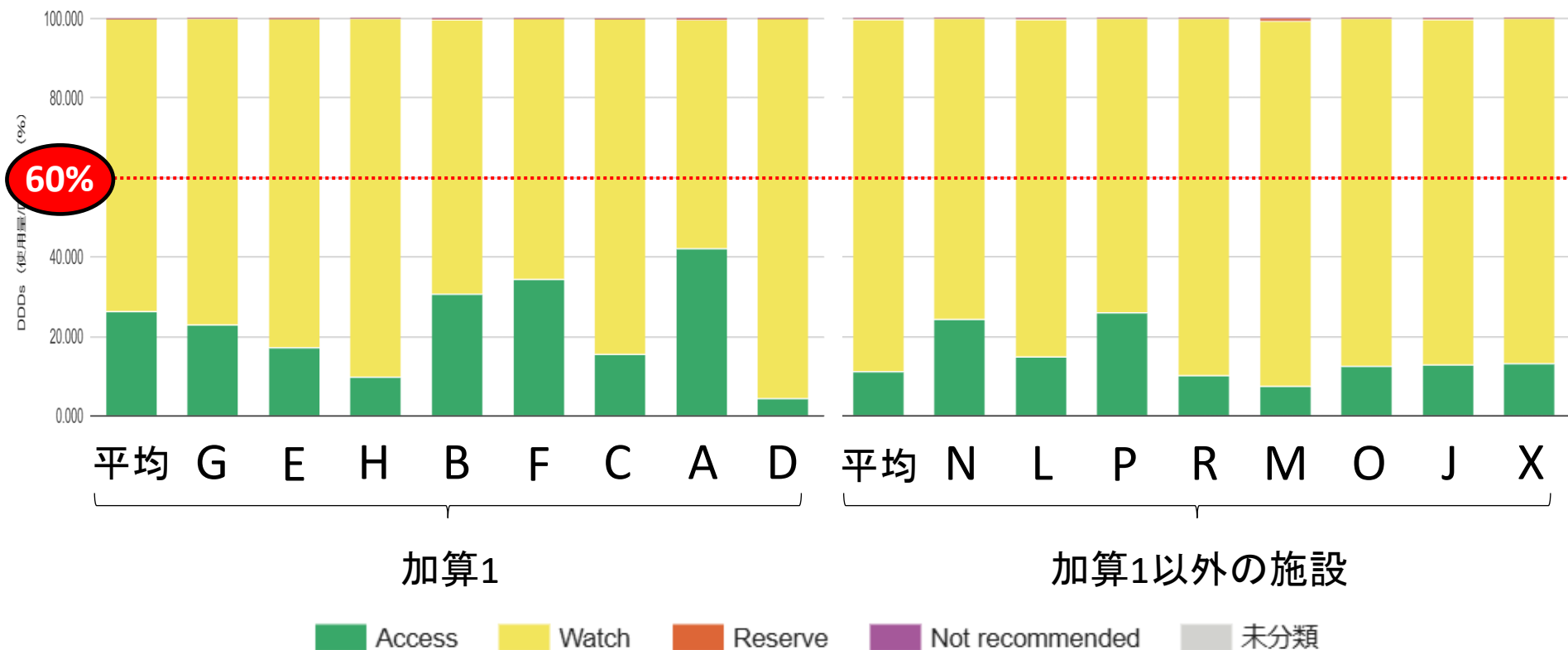
Watch

耐性化が懸念されるため、限られた疾患や適応にのみ使用すべき抗菌薬

Reserve

薬剤耐性のために他の抗菌薬が使用できない場合に使用される、最後の手段として取り扱うべき抗菌薬

加算1～3施設 外来経口抗菌薬使用状況AWaRe分類別 (2024年1月-2024年12月)



外来AMU情報登録施設: 加算1施設 8/8施設、加算1以外の施設 8/16施設

Access使用比率: 加算1施設 > 加算1以外の施設

データ入力にご協力いただき
ありがとうございます

今後のデータ集計について

引き続き、各グループ内で対象薬剤の使用量推移と使用量の内訳
の比較を行っていきます。

外来AMU情報登録にもご協力をよろしくお願いいたします。

集計方法についてご要望ありましたら、ご意見
お願いいたします。